

平成 25 年 4 月の解説（府県天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、低気圧が数日の周期で日本付近を通過し、北日本から西日本にかけては天気が数日の周期で変化しました。沖縄・奄美では前線や低気圧の影響により、曇りや雨の日が多くなりました。6～8 日は低気圧が発達しながら日本海と本州の南岸沿いを進み、北日本から西日本にかけての広い範囲で大雨や暴風となりました。この影響で、東日本太平洋側では旬降水量が平年比 278%となり、1961 年の統計開始以来、4 月上旬としては最も多い記録を更新しました。旬の前半は暖かい空気に覆われ北・東日本中心に高温となりましたが、後半は強い寒気が南下し西日本や沖縄・奄美で顕著な低温となりました。

中旬は、東・西日本では高気圧に覆われ、太平洋側を中心に晴れる日が多くなりました。北日本では前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美では気圧の谷や湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。また東・西日本では、旬の中頃は南から暖かい空気が入り高温となる一方、旬のはじめと終わりは強い寒気が南下して顕著な低温となりました。

下旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過しました。東・西日本は天気が数日の周期で変わりましたが、太平洋側では高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。一方、北日本は寒気の影響で、沖縄・奄美は湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。旬のはじめは強い寒気が南下し、東・西日本を中心に顕著な低温となりました。低気圧が本州の南海上を北東進した 21 日は、東日本の内陸部や北日本で雪となり、福島、長野では 1961 年の統計開始以来最も遅い積雪となりました。

月平均気温は、北日本、西日本、沖縄・奄美で低くなりました。月降水量は、北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側、東日本、沖縄・奄美で多くなりました。東京、横浜（神奈川県）では 4 月の月降水量の多い方からの一位を更新しました。一方、西日本太平洋側では少なくなりました。月間日照時間は、東日本太平洋側と西日本で多くなりました。一方、北・東日本日本海側と沖縄・奄美で少なくなり、岩見沢（北海道）では 4 月の月間日照時間の少ない方からの一位を更新しました。

【4 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 1 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 83%でした。各地方の適中率では、明日予報は例年値と同じか高い地域が多く、特に九州南部・沖縄地方で例年値より 9～10 ポイント高くなりました。一方、北海道地方で 6 ポイント低くなりました。明後日予報も例年値と同じか高い地域が多く、四国から沖縄地方にかけて 6～10 ポイント高くなりました。一方、北海道・東北地方では 5～6 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃小さい 1.6℃でした。各地方では例年値と同じか小さく、特に近畿以东では例年値より 0.5～0.7℃小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.4℃でした。各地方では例年値と同じか小さく、近畿地方では例年値より 0.4℃小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の天気予報の利用にあたって】

6 月は、南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、九州や四国、本州付近に停滞することが多くなります。平年では、6 月上旬から中旬ごろにかけて、西日本、東日本及び東北地方で梅雨入りとなりますが、梅雨入りの時期や梅雨の期間、天候経過などは年によって違いがあります。

梅雨の時期は他の季節に比べ大雨が発生しやすく、山崩れやがけ崩れ等の土砂災害、河川の増水や氾濫などの災害をもたらすことがあります。梅雨の時期に雨の天気予報が出ているときには、最新の気象情報や、大雨・洪水の警報・注意報などに留意して下さい。